

WE THINGS

GOOD MANNERS DOG TRAINING

第五章

ご挨拶

他犬とのご挨拶

ご挨拶したい

ご挨拶を望んでいない

他の犬とのご挨拶

一昔前に比べると、犬と一緒に入られるお店やホテル、ドッグランも増えましたよね。

そういった場所では当然他犬と出会う事が多くなる訳ですが、施設内でご挨拶するシーンが出てくるかと思います。

第四章の「許可を使ったご挨拶」でも少しお話ししましたが、誰でも彼でもみんなお友達！ではないですよ。

相手が犬や人が苦手だったり、こちら側が犬や人と何らかの事情で関わりたくない状況が時々であるかと思います。

なので、この時重要なのは相手との十分な距離を取ってまずはご自身のパートナーの確認です。

余談ですが、この「距離」とても大切です。

人間でいうとパーソナルスペースで考えるとイメージしやすいかと思えます。

ちなみに「パーソナルスペース」を調べてみると…心理学用語。コミュニケーションをとる相手が自分に近づくことを許せる、自分の周囲の空間（心理的な縄張り）を指す。

一とありました。

このスペースは個人的なもののため、あたり前ですが相手ごとに距離は変わりますし、細かい距離の違いがあるかと思えます。

こういったスペースは犬にもあるようです。

ただ、「許せる空間」というと少し堅いので「落ち着いていられる空間（状況）」と当てはめてみます。



「落ち着いていられる空間（状況）」を考えてみます。

- ・ 飼い主の声に反応できる。
- ・ 食べ物が食べられる。
- ・ 気になる物から目をそらす事が出来る。

…etc

以上のようなものが判断基準にできます。

これが、否定の状況（飼い主の声に反応できない、食べ物が食べられない…etc）になった時、そこは「落ち着いていられる空間（状況）」ではないという事が判断できます。

少し逸れてしまいましたが、距離を取ってまずご自身のパートナーがどのような状況なのかを一番に確認してあげてください。
以上の事を踏まえてご挨拶の流れを見ていきたいと思います。

- ・ ご挨拶したいバージョン

*流れ

①自分のパートナーの確認

ご挨拶したそうである事が確認できた

（一例ではありますが、相手の方を見ていたり相手に向かって行く様な仕草で希望している事が予測できます）

②相手の状況の確認

③相手の犬の様子や実際に相手の飼い主に伺う

ご挨拶を希望している事が確認できた

④こちらに許可を求めているのを確認し「許可」の言葉を言ってからご挨拶開始

ここからは、ご挨拶できてよかったね～とほほえましく眺めながら、さあ後は犬たちに任せて飼い主はここらへんで…

という事ではなく、ある程度のところで人が介入するように私はしています。



ご挨拶からはじまり、少し鼻で相手をツンツンする、相手のからだに手をかけてみる、プレイバウ（遊ぼうよ！のサイン）をする、声が出る、体を少しぶつけてみる…等どんどん犬たちのテンションが上がってくるでしょう。

ただご挨拶だけのはずが、気が付いたら遊びが始まっている、なんてこともありますよね。

それがダメというわけでは無いのですが、毎回そうしていると他犬に会った時は決まって大興奮するようになっていくはずです。

犬を見ただけで常に大興奮、ご挨拶もステップ飛ばしていきなり体当たり、なんて事もあるかもしれません。

また、急いでいるため早くその場から離れたい様な時に興奮が絶調だとすると相手の犬から離れるのはかなり大変です。

さらにはそういった関わりが習慣的に続いていた場合、ある日突然人間側の都合で一切叶わないとなるとがっかりもするでしょうし、また相手の犬からすると興奮している犬の様子を見て怖いと思うかもしれません。

他の犬との関わりで大事なものは、「何も起こらなかった」を経験する事です。

犬たちは「なんだ、いちいち大騒ぎしなくてもいいんだ」「よかった、怖い事は起きなかった」という経験を積む事で、「ご挨拶」と言うものを理解していってくれるでしょう。

ご挨拶のときは、これ以上続けると興奮が上がるな、という手前で人の元に呼び戻す事でこちらに意識を戻してもらうのが良いですね。



無理矢理ではなく、あくまで犬の意思で来てもらう事が重要になります。

この時、同時に相手の方でも呼び戻してもらう事も外せないポイントです！

こちらは頑張っ呼び戻しているのに相手がまだ続けていると当然ですが自分の元に来てもらうのにとってもハードルが高くなりますよね。後ろ髪めちゃめちゃ引かれるでしょう。

また、相手の方が呼び戻しをしているのにご自身のパートナーがまだ続けていたらやはり同じようにハードルは高いですね。

ここまでは「ご挨拶を望んでいるバージョン」で見えてきましたが、次はご自身のパートナーが「ご挨拶を望んでいないバージョン」も見えます。

- ・ ご挨拶を望んでいないバージョン

*流れ

①自分のパートナーの確認

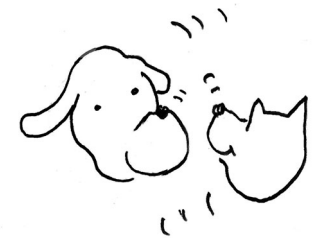
ご挨拶はしたくない様子が確認できた

(一例ではありますが、目を逸らしていたり反対の方に体が向いている様な仕草などで望んでいない事が予測出来ます。)

②相手の方に一言断りをし、ご挨拶できないことを伝える

ご挨拶できない事は決して悪い事ではありません。

せっかく声を掛けてくれたのに申し訳ないな…と思いがちですが、そこには様々な理由で関わりを持ちたくないという立派なパートナーの意思があるのです。



そこを尊重してあげる事が人間側が自分のパートナーのために出来る事だと思っています。

そしてこのように犬たちの意思を尊重する事で、パートナーは「わかってくれた」「守ってくれた」と理解してくれると私は思っています。

その理解が積み重なる事でも信頼感が生まれて行くのだと感じています。

自分の考えや思いを理解されると私はとっても安心感を感じます。そして私はそんな安心感を自分のパートナーにも感じてもらえる存在でありたいです。

そして、「相手側にご挨拶を望んでいないバージョン」もありますね。

- ・ 相手側にご挨拶を望んでいないバージョン

*流れ

①自分のパートナーの確認

ご挨拶を望んでいる様子が確認出来た

②相手の状況の確認

ご挨拶を望んでいない様子が確認出来た

(一例ではありますが、目を逸らしていたり反対の方に体が向いている様な仕草などで望んでいない事が予測出来ます。)

③相手の方に一声掛ける

「また今度ね」など

④自分のパートナーに今回はご挨拶が出来ない事を伝える

少し方向を変えて違う方に歩き出すなど状況を変化させる



このような時、相手の方へ向いている気持ちを諦めて一緒に来てくれたと考えて少し遊んだりも良いですね。

そうする事でパートナーはご挨拶したかった気持ちを残したままにならないでしょうし、相手側からもやはり「理解してくれた」「嫌な事が起きなかった」と安心感を得てもらえると思います。

このように文字にすると簡単なように思いますが、実際のそのときの状況になると頭がいっぱいになることもあります。

そんな時は、「まずパートナーの確認！」を思い出そうにしています。

この時に大事なのはやはりパートナーの気持ちだと思っているからです。
どの次は、相手の確認です。

こういったご挨拶の事は人間同士でも同じかも知れませんね。
どちらの立場も配慮してご挨拶ができるって本当にとっても素敵です。

※ご案内

実際のマンツーマンコースでは、それぞれの犬の状況によって他の方法を提案する事もありますので、参考程度に読んでくださいね。

